

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	平成29年度 第2回 所沢市環境審議会
開 催 日 時	平成29年7月5日(水) 10:00~12:00
開 催 場 所	市庁舎 高層棟6階 604会議室
出 席 者 の 氏 名	田中充、毛利吉成、足立圭子、内田勉、渋谷正則、葛西聡、佐々木渉 長谷川陽子、上田マリノ、坂根裕子、栗須菊香
欠 席 者 の 氏 名	天野正博、秋元智子、高柳正行、藤田由紀枝
説 明 者 の 職 ・ 氏 名	
議 題	1 開 会 2 環境基本計画の基本的事項、基本理念、将来像、分野別基本方針について 3 本市の環境の現況と課題について 4 市民アンケートについて 5 その他
会 議 資 料	・ 次第 ・ 資料1 環境基本計画の基本的事項について ・ 資料2 環境基本計画の基本理念・将来像・分野別基本方針について ・ 資料3 環境に関するアンケート調査(案)
担 当 部 課 名	環境クリーン部 部 長 越阪部 孝夫 次 長 大澤 稔 環境政策課 課 長 大館 真哉 主 幹 安藤 善雄 主 査 増田 弥生 主 査 三浦 直子 主 事 溝越 弘倫 環境対策課 課 長 矢野 正和 みどり自然課 主 査 荒井 直樹 資源循環推進課 課 長 池田 淳 環境クリーン部環境政策課 電話 04-2998-9133

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
安藤主幹	開会・あいさつ
会 長	<あいさつ>
安藤主幹	出席者が全委員の過半数に達しているため、審議会規定により会議の成立を確認。 傍聴者はなし。
事務局	<資料1及び資料2に基づいて基本的事項について説明>
会 長	ここまで、理念的なところの説明をいただいた。資料1は基本的事項や位置づけの説明であった。第3期基本計画は、理念・施策部分と重点プログラムを分けて整理し、別冊とするという提案である。私の理解としては、別冊の重点プログラムといっても「第3期環境基本計画の重点プログラム」であり、第3期基本計画の枠の中に納まっていると認識している。基本計画の中で、特に重点として行う課題を重点プログラムとして仕分けをしたという説明になると思う。 資料2では3つの基本理念が提案されている。またP2に将来像が提案されている。これらは確定しているわけではなく、案として提案されているものである。不明な点や経緯がわからないものなど質問してほしい。
委 員	第2期計画において、できた部分とできていない部分について教えてほしい。また、第3期はできなかった部分をメインに取り組むのか、それともできた部分をさらに取り組んでいくのかを教えてほしい。何をメインにするのかがわかれば、基本計画の目玉がわかりやすいのではないかと思う。
事務局	できていなかった部分についても、課題として引き継がれるものと考えている。目玉としては、基本理念の3本柱に代表されるが、国際的な流れを踏まえると、持続可能性が一番のポイントになると考えており、そのために共生や協働という面を推し進めていくことが必要である。重点プログラムもあるのでそこも強化し、分野別だけでなく横断的に組み合わせることも必要と考えている。

委員	もう少し具体的に、できたことやできていないことはあるか。
会長	資料2のP8から各分野について整理されており、数値目標が達成できているか否か等が書かれている。施策の基本方針と体系の中で吸収される話かと思う。震災やパリ協定など外的要因があり、それはまた対応しなければならない話ではある。
大館課長	会長のおっしゃる通り、資料2のP8以降に分野別の課題や指標の実績等を書いている。また、基礎調査を別で行っており、第3回では概要の報告を行いたいと考えている。
委員	資料2、P1の基本理念3「市民協働による環境づくり」について、「市民」の範囲について教えてほしい。子どもから大人までという記載があるが、年齢以外では、事業者や行政も含めて全員が市民という位置づけなのか。
事務局	年齢だけでなく、一般の生活者、事業者、行政も含めてということである。どんな立場の方であれ、ということである。
委員	了解した。それならば、それがわかるような表現にしてほしい。もっと多くの、立場を超えた協働が必要だということを書き加えた方が良いのではないか。
事務局	了解した。
委員	環境基本計画の中に個別の計画という構成はこれまであまり経験が無い。資料1裏面の表だけではあまり頭の整理ができなかった。本編でやるべきこと、重点プログラムでやるべきこと、などそれぞれあると思う。マトリクスだけでなく図のような形でも整理できないか。
事務局	了解した。わかりやすい形で整理する。
大館課長	補足すると、施策は基本計画の方にすべて書き込む。重点プロジェクトでは、基本計画10年のうちの前期5年間で力を入れて取り組んでいく事業等について特筆してまとめることを考えている。

委員	個別の施策があった時に、重点的に行う二重丸と、普通の丸がある、そういうイメージか。
大館課長	おっしゃる通りである。それが別冊になっているイメージである。
会長	基本計画の「分野別施策体系」においては、分野別に、体系的かつ網羅的に施策を掲載するということであろう。その中で特に重点化する、二重丸のものを特出しにして別冊にするということだと思う。温暖化対策やみどりの保全などといった課題ごとに、5年間で射程においたものである。基本計画が中長期計画であるのに対し、重点プログラムは短期実行計画であると理解している。5年間で成果をあげるために、施策項目をある意味分野横断的に整理していくためのもの、という理解をしている。
委員	重点的なものは、緊急性があると思う。そのため、国や県の作りと同じにする必要はなく、別冊にして市民に大いにアピールすべきだと思う。
事務局	アピールできる別冊としたい。
委員	別冊の区分について、再生可能エネルギーが共生に組み込まれたりされているが、分類の根拠を教えてください。
事務局	今回提示しているものは案なので今後変わるかもしれないが、省エネルギーなどは市民の皆さままで取り組むものが多いので協働に入れた。温暖化対策については、社会的に持続可能かどうかという瀬戸際にいるため、持続可能の分野に分類している。
大館課長	再生可能エネルギーについては、自然の力を借りて、持続的に使えるエネルギーを使っていこうということであるので、自然との共生という意味も含めて共生に分類している。
会長	区分は理念のキーワードでの3分類にこだわらず、あまり固定的にしない方が良くはないか。施策というものは理念の3側面の1つに紐づけられるわけではなく、3側面それぞれに関わりのあるものといえるためである。

副会長	<p>計画の背景に関連して、所沢市環境基本条例が平成9年に制定されている。20年前の言葉が未だに、3.11を経てもそのまま使われているということである。資料2では「マチごとエコタウン構想を基本にしながら」といった説明が多く登場するので、エコタウン構想の内容が盛り込まれるような基本条例の見直しはできないか。それを基にして基本計画を策定するのは重要なことだと考える。市民の皆さんの環境に対する考え方やライフスタイルに対する意識は変わってきているのではないか。</p>
会 長	<p>環境基本条例については、第2期基本計画のP128に参考資料として掲載されている。20年前の条例だが、良くできている条例なので、大きく変えることはないと考えているが、事務局で確認し、もし必要があれば審議会の点検の中に盛り込むようにするのはどうか。</p>
大館課長	<p>基本条例ということで理念条例になっているので、改正をすること自体があまり多くないことではあるが、一度確認をしたい。なお、基本条例を基に様々な条例が作られており、その時々に応じた課題があれば新たな条例を策定しているのが実情であり、基本条例のみでやってきているわけではないことはご承知いただきたい。</p>
副会長	<p>平成9年以降に見直しはないのか。</p>
大館課長	<p>平成13年、14年、15年、16年に一部改正をしている。改正内容までは、申し訳ないが今すぐには確認できない。</p>
副会長	<p>マチごとエコタウンに関する内容が基本条例の中に出てきてもいいのではないかと、ということが質問の趣旨である。そうすることによって、基本計画や重点プログラムの内容が生きてくるのではないかと思う。「絆づくり」など、理念的な言葉で動いていると思う。基本条例は大事ではないかと考えている。</p>
会 長	<p>事務局には条例を全体的に見ていただいて、必要があればまた審議会上に報告をお願いしたい。</p>
委 員	<p>以前、環境基本条例をつくる際に近くにいたが、この条例はダイオキシンを抑制するために必要な条例であった。国にも県にも条例がなく、ダイオキシンを出さないために一番下の市が頑張って作った、と</p>

	<p>いうものなので、これとはまた別な考えでマチごとエコタウンに関することを立ち上げた方がやりやすいのではないかと。</p>
副会長	<p>関係図をみても、整理は必要ではないかと。</p>
会長	<p>ここで、欠席されている天野委員から意見をいただいているということであるので、事務局から簡単に趣旨を紹介していただく。</p>
事務局	<p>(事務局より意見概要説明) 基本理念がマチごとエコタウンのキーワードを拾ってきたものに読めてしまうので、前書きに社会状況の変化について記載し、それらに対応した基本理念という説明ができると説得力をもつということ。また、将来像については、総合計画の将来都市像とあわせて考えると、自立した都市のイメージを自然環境・社会環境の両面から強調すべきということ。また、「紡ぐ」については曖昧であり、具体的な表現をすると良いということ。以上の意見をいただいた。</p>
事務局	<p><資料2に基づき、事務局より分野別基本方針及び本市の環境の現況と課題について説明></p>
会長	<p>ご意見ご質問があれば、お願いします。</p>
委員	<p>P5の③資源循環について、「循環型社会」とは幅広い概念なので、ごみの減量・資源化の話だけではない。循環型社会のような難しい言葉でなく、第2期の「もったいないの心」のようなわかりやすい言葉のまま良かったのではないかと。</p> <p>また、P8以降がブラッシュアップされて基本計画につながるという理解で良いかと。</p>
大館課長	<p>直接基本計画につながるというよりは、前回スライドでご説明した内容を今回の資料としてまとめたものをご理解いただきたい。</p>
委員	<p>了解した。質問をした理由は、資料内の記述について疑問がいくつかあったためである。例えば、「関連する社会状況」について、P13に記載されている平成27年の廃棄物処理法の改正では主に災害廃棄物について改正されているのだが、P12～13には災害廃棄物に関連する記述は無い。掲載するのであれば、必要な部分を盛り込んでほ</p>

	<p>しい。また、P 15の指標「環境基準の達成」も内容がわかりづらいし、P 15の関連する社会状況「水循環基本法」などは循環型社会に関するものであり、環境保全の分野にはそぐわない。そのような点で疑問があった。</p> <p>もう一点、生産緑地について。2022年問題があり、生産緑地が減る可能性があるが、所沢のような都市化が進んだ都市としては、ある意味貴重な身近なみどりではないか。都市計画から議論されるべきものと理解してはいるが、環境サイドからもアプローチはできないか。施策ができるかまではわからないが、何かしらの記述があってもいいのではないか。</p>
<p>会 長</p>	<p>何点かにわたってご指摘いただいた。基本方針のキーワード「もったいないの心」の方がいいのではないかというご意見は、事務局でもう一度再検討してほしい。P 8以降はわかりやすく整理されているが、関連する社会状況など意図がわかるようにする必要があるのではないか。</p>
<p>委 員</p>	<p>各分野別基本方針の「取り組みます」という言葉が、上から目線のように思えてあまりピンと来ない。併せて検討をお願いしたい。</p>
<p>会 長</p>	<p>何か代わる言葉として良いものはあるか。</p>
<p>委 員</p>	<p>今あるわけではないが、今のものは「取り組みなさい」と言われているように思えてしまう。</p>
<p>委 員</p>	<p>「みどり」の定義を記載しておいてほしい。マチごとエコタウンではみどりの定義を記載している。所沢の魅力は生産緑地もそうだが、一番は雑木林や川があるということ。生産緑地買取りについては国や県はどれだけお金を出してくれるかわからないので、まずはきちんとみどりについて定義して、それに対する施策を行っていくことが必要だろう。</p> <p>また、資料P 1の基本理念2の文章について、「大気、大地、水」よりも「空気・土・水」がわかりやすいだろう。「大事」は「大切」の方が良いだろう。「多く息づく」は多くないものはいいのか、と思ってしまうので再考してほしい。「一思いやり、助け合い、尊重—なくしても生きることはできません」も回りくどいため再考してほしい。</p>

会 長	事務局で再検討してほしい。
委 員	<p>将来像に「子どもたちの未来を紡ぐ」とあるが、実際は子どもから大人まで皆で取り組むものだと思うので、「子どもたちの」ではなく「子どもたちと」にした方が良いのではないか。その方が、子どもたちのためにやってあげる、ということではなく、皆で一緒にやっていくイメージになる。</p> <p>また、こどもエコクラブは登録者が減っているということだが、登録前提の手法でなく、生活の中に埋め込まれるようなシステムにした方が取り組みやすいのではないか。例えば学校に牛乳パックを捨てる場所があり、牛乳パックを持っていくのが登校の一部になっているような、そういう方法の方がいいのではないか。</p>
会 長	「子どもたちと未来を紡ぐ」について、事務局の方で「子どもたちの」と入れた意味はあるのか。
事務局	マチエコから持ってきた部分はあるが、次期総合計画では文教都市を考えていることもあり、子どもの未来を紡ぐという継承の部分を意識した表現であった。
会 長	<p>子どもだけでなく、大人も含めて様々な主体があり、未来は皆が持っているのではないか。様々な主体が手をつなぎ合っていくとイメージが必要だろうと思う。また、こどもエコクラブの意見については、こどもエコクラブの内容を一般生活や子どもの学習行動により密着した形にできないか、という趣旨であったように思う。</p> <p>資料P. 8以降の分野別の主な指標について、P 9のようにH 2 3からデータが載っているものと、P 1 1のようにH 2 7からしか無いものがあるのはなぜか。</p>
事務局	計画見直しの際に新たに指標として出てきた項目についてはH 2 7からになっている。全体を見る上では補足をする必要があったかもしれない。
会 長	P 1 5の大気環境についても同じか。
事務局	おっしゃる通りである。指標の数が変わったためにH 2 7からしか掲載されていないが、実際には、環境基準というものは以前から

	ある。
会 長	本来は計画期間にわたって継続して推移を把握できると良い。途中から載っている指標というのは少し評価が難しい。ここ5年などのデータを追加していただいた方が課題の状況が見えやすくなるのではないかな。
事務局	了解した。
委 員	第2期を策定した際、都市環境の中でバリアフリーの話が出てきたが、今回はあまり触れられていない。駅はかなり進んでいるが、駅以外においても進めていただきたく、長い目で見るとそういうことも入れた方がいいのではないかな。
大館課長	第2期でもバリアフリーについては記述しているので、第3期においてもまた入れていきたい。
委 員	食と環境は切っても切れないと感じている。いろいろ施策をやっていると思うが、地域に浸透しにくいものも多いと思う。地域と子どもと食をつなぐことによって、例えば遊休農地を使って子どもたちと一緒に廃棄物を資源循環させて、野菜になって地域の子どものために届く、といったような目に見える化ができると、子どもたちや市民がわかりやすい施策につながるのではないかな。
会 長	おっしゃる通りだと思う。今のような話は重点プロジェクトで出していく形になるかな。
大館課長	まずは施策体系のところ、施策を見ていただければと考えている。
副会長	先ほどバリアフリーの話があったが、これに関連して、自転車通行ゾーンを拡げていくことも間接的には化石燃料減少に向けた一つの施策になるのではないかな。所沢らしさを出す一つの側面になるように思う。
会 長	交通の低炭素化にかかわるとともに、都市環境にもかかわるご意見かと思う。 現在は大柱までを整理しているが、次はここに施策が張り付いてく

	<p>る、という展開になる。今回の意見や天野委員の意見の反映を含めて次回もう少しまとめたものを出していただくようにし、段階的に内容のグレードを上げていってほしい。</p>
事務局	<p><資料3に基づき、事務局より市民アンケートについて説明></p>
委員	<p>無作為 1,500 名ということだが、地区に関係なく無作為ということか。</p>
事務局	<p>おっしゃる通りである。</p>
委員	<p>地区によって傾向は違うと思うが、そういったことは考えていないのか。</p>
事務局	<p>分析において、地区ごとにまとめていくイメージを持っている。</p>
委員	<p>回答者からすると、あまり答える気になれないアンケートになってしまっているように思う。漢字だらけで問題も難しいし、選択肢も難しい。もっと文言を練る必要がある。2-3のように文章になっているものはまだ読みやすいが、2-2のようなものは面倒に感じてしまうし、特に高齢者の方からしたら読み取るのが難しいと思う。また、情報提供の場として3-4の①のように「イベントの情報提供」と書かれている場合もあれば、3-5の⑤のように「イベントの開催」と書かれている場合もあるなど、同じ内容に思えるが表現が異なる部分がある。書く人の立場に立ち、そのあたりをもう少し考えてもらえればと思う。</p>
会長	<p>表現やわかりやすさについてのご意見だが、内容が多いのがとっつきにくい一番の原因かもしれない。分野が多いので、どうしても質問項目が多くなってしまうのはわかるが。</p>
大館課長	<p>お配りしている資料では難しいものやイメージの湧かないものがあるかもしれないが、最終的にはイラストや解説のようなものを付けた形で配る。少しでもわかりやすくするように工夫する。</p>
委員	<p>回答すると何かメリットはあるか。</p>

大館課長	<p>プレゼント等はない。これまでの経験上、回収率は良い場合で40%代後半、悪い場合で40%下回るくらいになると予測している。</p>
委員	<p>おそらく高齢者の方がしっかりと回答し、若い人は面倒くさがつて回答しない傾向があるように思う。過去はいかがだったか。</p>
大館課長	<p>これまでを振り返ると、50代、60代の方が多かったように思う。今回はなるべく若い方にもということで、15歳以上から対象にしている。また、自由記入欄も多く設けている。過去の事例では、多くの方に自由記入欄にご自身の意見を記入していただいているので、そういった工夫はしている。</p>
委員	<p>「自分の考え」を選ぶ設問と、「自分の行動」を選ぶ設問がある。「行動」の設問は答えやすいが、「考え」については、難しいものもある。行動は考えに基づいている。様々な年齢の回答者がいることを配慮すると、「考え」の設問の中で、「行動」の設問に置き換えられるものはないか、検討してほしい。</p>
委員	<p>イラストや解説を入れるという手法はわかるが、ボリュームが増えるというジレンマがあり難しいところである。高回収率を目指す上ではボリュームはできるだけ抑えたい。</p> <p>また、行動については、何もやっていない人も多いと思うので、そういう選択肢も必要ではないか。</p> <p>P5の循環型社会の部分について、4-4で抜けていると思うのが、分別の徹底、細分化の選択肢である。過去に原単位が減っている例は分別の徹底、細分化をしたところであるので、市民に負担を強いる項目にはなるが必要ではないだろうか。</p> <p>また、P8の7-2のキーワードを選ぶ設問にこそ「その他」で自由に記述する選択肢が必要ではないか。</p>
委員	<p>どういうときに環境保全をしたいと思いますか、という質問を追加して欲しい。どうすれば市民が具体的に動くか、その行動のきっかけを知りたい。それがわかれば、そこに力を注げば理解が深まる人が増えるのではないか。</p>
副会長	<p>文言の整理、全体的に統一されていない感じがする。</p> <p>また、4-2について、すべての選択肢が最初から苦勞されている内</p>

	<p>容だと思うので、前向きな内容の質問にするのはどうか。例えば、①は「プラスチックやペットボトルのひとすすぎをしていますか」など。また、回答者に興味を持ってもらい、次の行動につなげてもらうというきっかけづくりもアンケートの大事な部分だと思う。読んでプラスの方向につなげられるような項目設定をできれば良いと思う。アンケート調査においては注意深く言葉を整理することが大変重要である。表現次第では回答者に「なんだ、馬鹿にしているのか」とも思われかねない。言葉の整理を今一度してほしい。</p>
<p>会 長</p>	<p>市民の目線から見たときのわかりやすさ、答えやすさについては全体的にチェックをしてほしい。また、選択肢によっては「わからない」などの項目も必要と思われる。行動のきっかけについての設問は、7番あたりに入れるのが良いだろうか。7月下旬に実施ということであるので、これらを含めて事務局の方で再度整理していただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p><その他として、次回のスケジュールの説明> 今回は少し日程が空き、11月初頭の予定である。具体的な日程調整についてはまた連絡させていただく。</p>
<p>会 長</p>	<p>今回は理念に加えて、施策の構造といったものも事務局で準備して審議する予定である。</p>
<p>安藤主幹</p>	<p><まとめ> 閉会</p>